

**令和3年度  
第1回社員総会を開催**

去る5月22日に中央シルバーエリアを会場に、35名の会員が出席し令和3年度第1回の社員総会と総合研修会（実践報告会）が開催されました。

コロナ禍ということもあり、出席できなかった会員が多かったのですが、総会では議案1・2、理事報告がありました。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大もあり、基礎研修を含むほとんどの研修が中止になり、会員同士、顔を合わせるこのできない日々の中で工夫を凝らしながら会を運営してきた報告がされました。

また今年度は、オンラインの活用など新たな取り組みを実践した、会の運営、研修会の開催の検討がされていることを報告いただきました。



第1回社員総会

<発行>  
一般社団法人  
秋田県社会福祉士会  
<発行責任者> 和田 士郎  
<事務局>  
秋田市旭北栄町1-5  
(秋田県社会福祉会館内)  
<TEL>  
018-896-7881  
<FAX>  
018-896-7882  
<MAIL>  
akitaken-csw@flute.ocn.ne.jp  
<URL>  
<http://www.akita-csw.org/>  
編集 広報委員会

秋田県社会福祉士会会員職種

勤務先種別	人数
高齢者施設等	102
居宅介護支援事業所	13
地域包括支援センター	29
障害者支援等	36
児童福祉関係	12
社会福祉協議会	45
福祉事務所・行政	23
医療関係	36
教育関係	14
その他	87
合計	397

地域別人数

地域	人数
北	106
中央	197
南	94
合計	397

(令和3年6月現在)

社員総会では、会員数の報告がありましたが、勤務先種別、地域別の資料を掲載いたしました。会員同士の連携や活動のご参考にしていただければと思います。

- ・令和3年度第1回社員総会
- ・令和3年度総合研修会
- ・基礎研修
- ・第29回社会福祉士会全国大会
- ・社会福祉学会報告
- ・ペンリレ

## 令和3年度総合研修会

社員総会の後行われた総合研修会では、「コロナ禍におけるソーシャルワークについて」というテーマで、当会副会長・生涯研修委員長の鈴木卓氏をコーディネーターに会員が実践報告を行いました。コロナ禍で研修会に参加できなかった皆さんも多くいらっしゃいましたので、紙面上で学びを深めていただきたく、実践報告を掲載いたしますので、ぜひご一読いただき研鑽に努めていただけたらと思います。

### 市立秋田総合病院

松 木 亜希子

私が勤める市立秋田総合病院は病床数456床の総合病院で、現在社会福祉士6名が、看護師・事務員と共に医療相談や、退院支援・調整の業務にあたっています。

令和3年1月16日、当院において新型コロナウイルス感染症院内クラスターが発生しました。新規患者の受け入れ等を停止、相談窓口機能や退院調整業務も中止となり、私たちはクラスター発生前後の入退院患者への対応、病院や施設への連絡調整、問い合わせ専

用電話の対応など、日々の業務とは違った対応が求められました。また、病院の退院基準がそのまま地域で受け入れしてもらえない基準ではなく、患者・家族が安心して地域で生活できるように病院として対応できることは何かを、地域の方々と毎日相談しながら対応にあたりました。その際には社会福祉士会のネットワークや普段からの繋がりがとても重要であったと感じています。

終息宣言後、当院では面会や退院前カンファレンス等がオンラインに切り替わり、支援のあり方にも少し変化がありました。家族の来院機会も減る中で、患者・家族・地域の支援者の関係が希薄にならないよう働きかけや橋渡しの役割を、今まで以上に意識し取り組むようになったと思います。

今回を機にあらためてネットワークの重要性や、自身の支援のあり方を考えることが出来ました。今後も世の中の状況に対応して柔軟に対応していけるよう、研鑽を積んでいきたいと思っています。



総合研修会の様子

### 大館市社会福祉事業団

デイサービスセンター大滝

和田 誠 美

私は社会福祉士会の会員になり5年目を迎えました。これまで研修に参加させてもらえばかりでしたが、自分にもできることはないかと4月の実践報告会の発表者をお引き受けしました。

課題は「コロナ禍におけるソーシャルワーク」だったので、自分が携わっている法人の感染症委員会の業務について、迷いや漠然とした不安を抱えながら行っていたこともあり、ソーシャルワークの視点から振り返ってみる良い機会だと感じました。ソーシャルワーカーとして法人事業所横断による感染防止対策の取り組みについてどのような立場で関わっていくことが大切なのか、社会福祉士としてどの様な視点を持って取り組んだのか、倫理基準をもとにまとめました。この振り返りの中で気が付いたことは、いろんな場面で判断を仰がれ、決定に対して責任を持たなければいけない場面があるのですが、根拠を持たない判断は好ましくない状況や環境を作り、利用者に不利益を与えてしまうということです。判断に迷う時は倫理綱領に立ちかえり、根拠を持って判断、決定していかねればいけません。倫理綱領の前文では「社会

変動が環境破壊及び人間疎外をもたらしている状況にあつて、この専門職は社会にとつて不可欠であることを自覚するとともに、社会福祉士の職責についての一般社会及び市民の理解を深め、その啓発に努める」と述べています。まさに今この状況下において、私が行っているソーシャルワークは組織内で実践されている小さなものです。しかし、その小さなものが寄り集まり、大きなものとして動き出したときに、社会を支える専門職として認識されていくのだと思います。これからも社会福祉士として自覚を持ち、実践を深めていきたいと思えます。

## 基礎研修

昨年度、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となつた基礎研修でしたが、新たな取り組みとして、今年度はオンラインでの基礎研修開催となりました。受講生、研修担当、それぞれの目線からの感想をお伺いしました。今後のオンライン研修にいかしていいのではないのでしょうか。

### (講師の声)

工藤 摂子

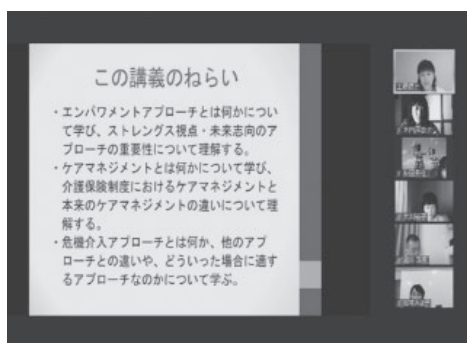
オンラインは一人の空間からの発信ですの

で、受講生の頷きが励みになりました。画面上に顔と名前が表示されるので、全員を認識することができ、演習も楽しく進められました。集合研修と変わらず、受講生の学びの深さが感じ取れました。

### (スタッフの声)

石原 典子

初のオンライン開催で不慣れな点もありますが、大きなトラブルもなく一安心しています。飽きさせない講師の熱意と受講生の活発なグループワークが画面越しに感じられて、会場開催さながらの学びを体験しています。



### (受講者の声)

伊藤 拓真

コロナ禍での研修ではありますが、オンライン上で、受講生同士の顔を合わせる形で他領域の方と経験をシェアし、それぞれの視点からグループ討議ができ、有意義な時間を過ご

すことができました。

久留島 一 浩

リモート形式ということで、会場までの移動の時間が大幅に削減されました。秋田市で開催されることが多く、県北に住んでいる身としては、その分の負担が軽減されたことは助かっています。長丁場ですが、他の参加者の方々と共に乗り切っていきたいと思えます。

木内 麻衣子

オンライン研修は、初めてだったため緊張がありました。感染症対策、会場までの移動時間がないことなどの利点、相手の反応を直接感じ取れないこと、空き時間のコミュニケーションがないことは寂しく感じられました。チャット機能やリアクション機能を有効活用して、コミュニケーションを楽しみながら研修に参加したいと思いました。



## 第29回全国日本社会福祉士会全国大会・ 社会福祉学会山形大会

7月3日・4日に第29回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉学会が山形県山形市 東北文教大学をホスト会場にオンラインで開催されました。日本社会福祉士会初のweb開催となりましたが、大会申込者1182名、当日視聴参加者689名と伺っています。秋田県会員も数名が参加しています。今回は参加した広報委員より大会について感想を含めて報告します。



### (シンポジウム：1日目)

「多様性を尊重する社会を目指して」

今、新時代の社会づくりをデザインする

テーマに沿って5名のシンポジストからそれぞれの取り組みについてお話がありました。

た。医療的ケア児の置かれている現状と課題、不登校や若年無業者の支援事業、セクシャルマイノリティ、高齢者、外国人に対する支援の必要性や具体的な取り組みについてお話があり、コメンテーターの日本福祉大学教授原田正樹氏からは「地域の中のニーズは多様で変化が見られている。切れ目のない支援を続けていくためにはアウトリーチによる、制度だけではなくつながりを持つこと、そこから地域の課題が見えてきて、社会資源の開発につながれば」とのお話がありました。

### (分科会：2日目)

「権利擁護、生活構造、相談援助、福祉経営」

「児童相談所における支援と介入の分離に関する考察」児童相談所職員へのインタビュー調査を通して、「ダブルケアにおける生活の変化によるトレードオフの実態」質的研究によるケアの集中化をより困難にするメカニズムの解明、「障害福祉サービス事業の継続性を確保するための円滑な事業譲渡方法について」ある事業譲渡事例を通して、「教育現場における社会福祉士の人権教育の有効性について」車いすユーザーが行っ

た福祉講話活動の実践報告」の4つの発表がありました。



山形大会パンフレット表紙

### 参加者の感想

伊藤 誠 吾

私は、2日目に行われた自主企画シンポジウム「地域共生社会の理論的背景の検討及び実践化の課題」に参加しました。

シンポジストの意見で「地域共生社会」というがそもそも日本で地域での助け合いがあったのだろうか、家族の中の女性に家事や育児、介護が押し付けられる状況だったのではないだろうか、地域共生社会の内実は、無報酬の仕事を女性から住民やボランティアに移し替えただけなのではないだろうかとの意見ができました。また、地域共生社会は地域住民同士の相互扶助、助け合いを想定している

が、実際には、共生に応えられるほど地域社会は成熟していないのではないかとの指摘がありました。未成熟な地域社会の現状として、ギャンブルをする生活保護受給者の通報を奨励する条例が作られたり、マスク警察、自粛警察が登場し、地域の分断をおおる状況が生まれてきていることが報告されました。こうした状況を克服するためにも、私がヒントになると思ったのが、佐藤哲郎氏（岩手県立大学准教授）の報告でした。佐藤氏は、地域組織化について触れ、地域住民が主体性を身に着けられるように住民と話し合い、調査を行い、一緒に考えていく実践を重点的に行ってきました。住民の中には話し合うだけでいいのかという声もあったそうですが、なぜ支え合い、つながりが大切なのか、何が必要なのかを住民同士で話し合い、考え合うことを大切にしていたそうです。

私が考えた地域共生社会に必要なことは、地域で「考えられる仕組み」をどうやって作っていくかにあると思います。ソーシャルワーカーとして、従来のサービス調整のみでなく、社会の問題を調査、分析し、それをみんなで共有し、解決策を考えていくことがこれからのソーシャルワーカーには必要ではないかと感じました。そのためにも自己研鑽を積みたいと改めて感じました。

プログラム	
第 1 日目 7月3日 (土)	
12:30~12:45	◆ 開 会 実行委員長挨拶 一般社団法人 山形県社会福祉士会 理事長 鈴木一成 主催者挨拶 公益社団法人 日本社会福祉士会 会 長 西島 繁久
12:45~13:30	◆ 開 演 「これからの社会福祉士への期待 ～地域共生社会に向けて活躍できるソーシャルワーク専門職～」 講 師 厚生労働省社会・高齢政策課 地域福祉課長 藤田 隆雄 地域福祉課地域共生社会推進課長 社会福祉士専門 講座 長 北村 兵
13:30~15:00	◆ 基調講演 「多様性を包摂する地域共生社会」 講 師 中央大学 社会学部教授 坂本 太郎 氏
15:00~15:10	休 息
15:10~17:40	◆ シンポジウム 「多様性を尊重する社会を目指して ～中、新時代の社会づくりをデザインする～」 コーディネーター：宮城学院大学 教授 橋本 隆夫 コーディネーター：日本福祉大学 教授 藤田 定雄 氏 シンポジスト：NKK 山形県法務 監督 高橋 昭乃 氏 (現職分科) 山形市社会福祉協議会 事務局長 原藤 貴裕 氏 (現職分科) NPO 法人 ひとあし 代表 自治 啓祐 氏 (現職分科) よびあひ交差 代表 高田 浩典 氏 (現職分科) NPO 法人 I V Y 理事 西土 紀子 氏 (内職分科)
第 2 日目 7月4日 (日)	
9:00~12:00	① 分科会 「福利政策」「生活福祉」「相談援助」「地域連携」「福祉経営」「実務研究」の6分科会 ② 自主企画シンポジウム テーマ：「社会福祉士養成カリキュラムの改定で実務経験はどう変わるか」 講師者：東北の福祉指導者協会 司会者：日本社会福祉士会実務指導推進委員会副委員長 プロシキナチームメンバー

能登谷 直美

今回の全国大会はオンライン開催となり、開催日の7月3日・4日にリアルタイムで視聴する方法の他、7月5日〜7月19日の間も配信されていて視聴することが可能でした。他県の社会福祉士の皆さんと交流できないことには物足りなさを感じましたが、自宅にいながら参加できること、また当日視聴できなくても後日視聴できるなどメリットも多く、気軽に参加することができました（とはいえ、米沢牛、冷やしラーメン、さくらんぼは食べたかった…）。パネリストの方の中には自宅から参加している方もいて、お子さんがひよっこり顔を出すなど和む場面もありました。普段は、自分の仕事内容に関する分野の情報を得る事に偏りますが、全国大会に参加して久しぶりに幅広い分野における社会福祉士の活動内容を知ることができました。シンポジウムの中で「躓いた後に立ち直るため、

手を差し伸べるところが少ない。転んだ時につかまれるところをあちこちに作る事が大切ではないか」「ここにいていいと思える居場所作り」など多様性を尊重する社会において求められる視点について事例を通して学び、刺激を受けることができました。  
新型コロナウイルスの感染が収束し、集まることが可能となってもオンラインという方法には多種多様な状況にある方も参加しやすいのではないかと思います。

**2022** (令和4年)

**第30回記念大会開催!**

来年の全国大会は東京/オンラインで開催されます。

皆んなで参加しましょう!

開催日時  
**令和4年7月2日・3日**



# ペンリレー

## 「学びには楽しみを」

秋田県北児童相談所 児童福祉司

猪俣 美奈子

いつもパワーをもらっている佐藤舞子さんからバトンを受け取りました。佐藤さんから「とってもアクティブな」と紹介していただいたので、「こんなところのことかな?」というところを、社会福祉士会での研修を交えながら書いていきたいと思っています。

秋田県社会福祉士会に入会してあつという間に10年が経ちました。入会した頃に新・生涯研修制度が運用開始となり、基礎研修Ⅰ～Ⅲを1期生として受講することになりました。研修で知識を身につけることはもちろんですが、それ以上に多くの方とのつながりからたくさん気づきやパワーをもらえること、皆と会えることが楽しみな3年間でした。

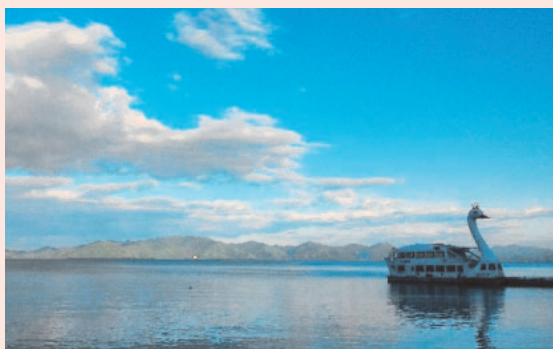
県内外の研修に参加していますが、その中で毎年参加したいと思っているのが全国大会です。その土地に根ざした福祉の在り方や、全国の方々の発表が聞けるのはとても励みになります。まだ東北・関東での参加しかできていませんが、毎回自家用車で行き大会前後に旅するのも楽しみのひとつです。それを知っている仲間からは「また色々回ってきたのー」と言われることも。一昨年は高知に行けると楽しみにしていましたが、コロナで中止となってしまいました…。

その他にも、東京での研修に参加した際は舞台やライブを観に行ったりと、一生懸命勉強したご褒美もいっぱい。 (本当はご褒美のほつがメインじゃないのと思った方、そこは研修メインとさせていただきます)

一昨年からコロナの影響で多くの研修がオンラインになってしまい、気軽に受講できる反面、一緒の場にいるからこそ得られる学びや楽しみがなくなってしまったことが残念でなりません。今後研修などで皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

研修に関わらず、基本的に『まずはやってみよう』がモットーの私。今後も前向きにアクティブに仕事もプライベートも過ごしたいと思っています!

次は、日頃から大変お世話になっている、大館市子ども課越前屋優貴さんにバトンを渡します。



猪苗代湖にて



# 編集後記

昨年の災害級の降雪よりはいくらか穏やかな冬となった秋田。しかし、コロナの影響で冬の行事は中止となり、なかなか外出できず、郷土料理で季節を味わうことが楽しみとなった今日この頃。秋田の新しいお米「サキホコシ」はどんな料理と合うのか、新しい発見を楽しみに食しています。

苦勞の末に生まれた「サキホコシ」が秋田に新しい未来を花開かせるように、急激に進んだICT技術の活用もまた、地方に居ながら同じ時間を共有できるという新しい扉を開いてくれました。

今号はコロナ禍でありながらオンライン活用により様々な研修を体験した感想などを掲載しています。お楽しみいただけたらと思います。